

山椒は小粒でも…



Vol.24

今だから話せる、カビ臭い過去

昨年、還暦を迎え、気のせい
か断捨離やら終活というコ
トバに目がいくようになって
きました。

人生100年時代とはいっ
もの、あくまで100年の
余命があるのは、今この瞬間
に生まれた赤ん坊のこと。私
の年代に残されているのは、
あと二十数年間かな、と思
います。

さて、捨てるに捨てられ
ないモノ、みなさんもきつと
ありますよね。オモチャやぬ
いぐるみ、アルバムなど思い
出の品々、趣味が高じて集め
すぎたモノ、他人から見たら
「何それ？」って言われそう
なモノ。私にもいっぱいあり
ますが、そのうちのひとつに
予備校・大学生時代に集めて
いた「スポーツ新聞」があり
ます。

高校を卒業して上京し、今
のようにインターネットやス
マートフォンが普及してしな
かった当時は、ラジオや新聞

が楽しみのひとつでした。

実は、私はこのスポーツ新
聞を溜め込んでしまい、今も
捨てるのができずに悩んで
います。集めた量はダンポー
ルに5箱くらいあります。ま
たくはバカみたいですね。

当時は熱烈な巨人ファンだ
ったので（今は昔のように勝
ち負けにこだわることはない
巨人ファンですが）、巨人が
大勝して見出しの躍動
する新聞を中心に集め
ていました。

先日、物置の片づけ
をしていてそのうちの
ひとつを開ける機会が
ありました。今にも虫
が這い出してきそうな
カビ臭いニオイとも
にあの頃の記憶が蘇っ
てきました。

高田馬場駅のホーム
から見る夜空、扇情
的なまちのネオンサイ
ン、酔っぱらいのサラ
リーマン、山手線の

緑の車両、当時ラジオから流
れていた中島みゆきの「ホー
ムにて」のメロディ…。今思
うとあれは昭和の終わり、経
済がバブル崩壊に向かいつつ
あった頃です。蘇ってくるの
は、新聞やジャイアンのこ
とではなく、その頃の東京し
たばかりの新宿の光景。

ちよつとお恥ずかしい過去
をお話したらスッキリしま
した。これで心置きなく断捨
離できるといいのですが…ま
あ、無理でしょうね。

梅雨が明けたら令和の風に
さらして、新しいダンポール
に詰め替えることにします。



王はもちろん、榎原、新浦が…



Vol.182
教育委員会生涯学習課
☎ 1268

「子どもの権利条約」 ～国連採択から30年～

2019年は、「子どもの
権利条約」(児童の権利に関
する条約)が国連総会で採
択されてから30年目にあた
ります。この条約は、18歳未
満を子どもと位置づけ、すべ
ての子どもたちに自らが権
利の主体であることを約束
し、人権を保障する法的拘
束力を持った初めての国際
条約です。

この条約により、日本を
含む196の国と地域で、5
歳未満児の死亡数の半減、
就学者数の増加、児童労働
からの解放などの成果があ
りました。一方で、子どもた
ちの周りには、暴力や虐待、
貧困、人身売買などの人権
問題が存在するのも事実で
す。また、災害や武力紛争に
より、多くの子どもたちが
犠牲になっています。子ども
の権利条約は、それらの課

題に対して、国際社会が一
丸となつて取り組む原動力
になっています。

日本では「子どもの貧困
対策法」が制定され、「児童
福祉法」に子どもの権利条
約の基本理念が明記され
るなどの法整備を含め、さ
まざまな取り組みがされて
います。しかし、児童虐待
に関する緊急調査では、長
期欠席者で「虐待の恐れが
ある」と判断され、関係機
関と情報共有した子ども
が2656人、面談ができず
「虐待の可能性が否定でき
ない」として情報共有した子
どもは9889人に上るこ
とが明らかになっています。

この30年で、子どもたちを
取り巻く環境は劇的に変わ
りました。しかし、安全で安
心できる環境で、子どもが
子どもらしく生き、健やか
に成長し、その未来を保障
することができるよう、すべ
ての人々が努力しなければ
ならないということは、いつ
の時代も同じです。

子どもたちの命を守るこ
とこそが、何よりも人権教
育のベースであり、人権文化
の花を咲かせることにつな
がると思います。